

令和3年度阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会 議事概要

日時：令和4年2月24日(木) 13:30～15:30

場所：Web 会議形式にて開催

議事

- (1) 今年度実施事業の結果報告
- (2) 今後の情報共有のあり方及び対策連携について
- (3) 次年度の予定
- (4) その他

<出席者一覧>

1. 構成員

所属・役職	氏名
環境省釧路自然環境事務所 統括自然保護企画官（議長）	川越 久史
林野庁北海道森林管理局 計画保全部保全課 生態系管理指導官	藤本 隆幸
根釧東部森林管理署 次長	山田 広幸
根釧西部森林管理署 地域林生調整官	阿部 恵徳
網走南部森林管理署 総括地域林政調整官	高見沢 敏男
網走南部森林管理署 総務グループ 事務管理官	五十嵐 護
十勝東部森林管理署 総括事務管理官	齊藤 孝次
北海道環境生活部環境局自然環境課 エゾシカ担当課長	(代理) 係長 仲澤 健 (随行) 釧路総合振興局 主事 川西 啓太 十勝総合振興局 主任 宮崎 広幸
清里町産業建設課 課長	(代理) 主事 氏川 享祐
小清水町産業課 課長	畔木 雅之
足寄町経済課 課長	(代理) 主任 上田 利浩
標茶町農林課 課長	(代理) 宮澤 匠 (随行) 主事 二ツ森 拓海
弟子屈町農林課 課長	(代理) 係長 西内 博光 (随行) 事務補 小野寺 達也
白糠町経済部経済課 課長	(代理) 主幹 平野 雄士
鶴居村産業振興課 課長	(代理) 係長 松尾 昭夫 (随行) 鳥獣被害対策専門員 桂川 裕介
一般財団法人前田一歩園財団森林保全課 課長	酒井 賢一 (随行) 主事 時田 勝広

2. オブザーバー

林野庁北海道森林管理局 計画保全部計画課 自然遺産保全調整官	工藤 直樹
計画保全部計画課 課長補佐	窪田 秀幸
計画保全部計画課 生態系管理指導官	塩谷 昌土
釧路市産業振興部農林課（阿寒農林振興担当） 主任	安宅 弘志
釧路市阿寒町行政センター市民課（環境担当） 課長	（代理）課長補佐 富坂 伸幸
津別町産業振興課 課長	（代理）主事 上原 悟
美幌町経済部農林政策課 課長	（代理）主事 佐藤 広基
大空町産業課 課長	（代理）主査 水野 正樹 （随行）主事補 仙石 陸
中標津町経済部農林課 課長	欠席
地方独立行政法人北海道立総合研究機構 自然環境部 道東地区野生生物室 研究主任	亀井 利活

3. 有識者

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 自然環境部 道東地区野生生物室長	長 雄一
地方独立行政法人北海道立総合研究機構 自然環境部 生物多様性保全グループ 主査（野生動物保全）	稲富 佳洋
酪農学園大学 環境共生学類 生物多様性保全研究室 准教授	立木 靖之

<環境省・事務局>

環境省釧路自然環境事務所国立公園課 国立公園企画官	松尾 浩司
同 課長補佐	伊藤 敦基
同 生態系保全等専門員	上畑 華菜
同 阿寒摩周国立公園管理事務所 国立公園調整官	笹渕 紘平
同 国立公園管理官	和田 光央
同 同 阿寒湖管理官事務所 国立公園管理官	上村 兼輔
特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所 研究員	吉田 剛司
同 研究員	小林 恒平
同 研究員	中村 秀次
同 研究員	澤向 麻里絵

<意見概要>

発言者	内容
環境省 伊藤	開会挨拶、資料確認 本日の進行は、協議会の設置要綱により環境省釧路自然環境事務所統括自然保護企画官が務めさせていただく。
環境省 川越	早速、今年度実施事業の結果報告から始めたい。まずは環境省事業の報告から願います。
(1) 今年度実施事業の結果報告	
環境省 伊藤	参考資料1 実施計画（対策整理表）の説明 対策整理表で R3 年度に計画されていた主な事業について、各機関から報告をお願いします。
環境省 上畑	資料 1-①の説明 植生モニタリング計画案では、環境省が実施する事項を想定して記載しているが、構成員が実施する各種調査も可能な限り共有して頂き、環境省が集約して協議会で共有していきたい。
北海道森林管理局 藤本	資料 1-②の説明 北海道森林管理局が実施している植生調査（詳細影響調査、防鹿柵による影響調査、簡易チェックシート）の概要と結果について説明。 HP で公開している狩猟統計や簡易影響評価の結果などを地図上で整理した「エゾシカ情報マップ」の紹介。
根釧西部森林管理署 阿部	資料 1-②の説明 ワナは 12 月から設置しているが積雪の遅れから捕獲が開始できたのは 2 月。ワナに対するシカの警戒などから捕獲頭数は伸びていないが、捕獲を継続中である。
白糠町 平野	資料 1-③の説明 根釧西部森林管理署との連携で左股林道、新興松川林道の 2 か所で鳥獣保護区内での有害鳥獣捕獲を実施している。 左股林道は、今年度秋の豪雨により、不通となっている。
前田一步園 時田	資料 1-④の説明 R3 年度の捕獲状況、簡易防鹿柵による影響調査について報告。 防鹿柵の効果は、樹高成長率、20 cm未満の稚樹の生残率に現れた。 調査は今後も継続の予定。
環境省 川越	ここまでの報告に対して質疑等があればお願いしたい。
エネ環地研 稲富	(前田一步園の発表に対して) 今年度の捕獲効率は算出されていたが、昨年度以前のデータは捕獲数のみ表示されているので、捕獲効率という点での変化が知りたい。過去と比べて捕獲が難しくなっている等の変化はあるか？

前田一步園 酒井	捕獲 1 回あたりの捕獲数はこれまでの平均よりも少なくなっている。理由としては罾のサイズを小さくしたことも考えられる。
エネ環地研 稲富	長年の捕獲実績が（前田一步園には）あるので、今後は捕獲効率が下がっていくことが考えられる。周辺と協力して、国立公園全体で捕獲効率を上げていく必要がある。
エネ環地研 長	（環境省に対して）植生への影響調査を阿寒地区、摩周地区で行うとのことだったが、各調査区で調査手法は統一するのか？
環境省 上畑	植生モニタリングの手法は、道総研の調査手引きも参考にしている。基本的には既存調査手法による調査を想定しており、調査地ごとに調査の主眼（何を主に把握したいのか）が異なるため、調査の主眼に応じて調査方法も異なる。
エネ環地研 長	了解した。（環境省の先の発言に対して）この植生影響調査はモニタリングが目的と書いてあるが、今回の 4 年間の計画では、国立公園地域全体での植生への影響の普遍的な全体像を見たいということか？
環境省 上畑	その想定で考えているが、長期的なモニタリングが重要と考えており、過去のデータとの比較が可能な形で実施していく方向で考えている。
環境省 伊藤	調査手法について補足する。モニタリング計画案にあるように、各調査地点でどんなデータを得る必要があるのかを踏まえて、調査の主眼を記載している。その主眼に基づいて、過去の調査で用いられた調査手法とも照らし合わせて、適切な手法にて実施していきたいと考えている。
エネ環地研 長	長期的に傾向を把握することが重要。海鳥のモニタリング 1000 でも調査地点ごとに調査手法が異なるが、手法マニュアルを作成して、長期傾向が出るようにしている。手法が異なっても 4 年後に傾向が出るような形が望ましい。R7 年の計画期間終了時には手法をまとめ、各地点での影響評価を示した方がいい。
環境省 上畑	R6、R7 年には専門家によるワーキンググループを設置し、影響評価をまとめることも想定している。
エネ環地研 長	釧路湿原でも長期的なモニタリングを実施しているので、このような例を参考に、阿寒摩周においても R7 年に手法や評価がマニュアル等にまとめられると良い。
(2) 今後の情報共有のあり方及び対策連携について	
環境省 川越	次に、情報共有のありかたについて、環境省から説明されたい。
環境省 上畑	資料 2-1、2-2 の説明
環境省 川越	次に、構成員からご意見があればお願いしたい。
弟子屈町 西内	GPS 首輪による情報を基に、エゾシカが利用する場所などが特定できれば囲いワナによる捕獲の場所選定等に活用できると考えている。また、行動圏が判明すれば新たな対策にも活かせる可能性があるかと期待して

	いる。
標茶町 宮澤	国立公園付近の捕獲がなかなか進んでいない。GPS 首輪の情報は有効だと考えている。
清里町 氏川	神の子池が越冬地になっているが、観光地ということもあり直接的なエゾシカ対策をするのは実際にはなかなか難しい。
鶴居村 松尾	国立公園の周辺など、狩猟者が入りにくくエゾシカに関する情報が得られていない地域でも、GPS 首輪による情報があれば、今後捕獲を促進していけると考えている。
環境省 川越	何かご質問やご意見はないか？
酪農学園大学 立木	現地ミーティングでは参加者の意見を集約したが、これらの意見にレスポンスしていくのが大事。 市町村へのヒアリングも一部で同行したが、各機関が捕獲計画を立てる際に根拠となるような事実情報が求められていると感じた。根拠となる情報がないと計画の立案や評価、なぜ対策するのか説明が難しく PDCA サイクルが回らない。GPS 首輪の情報はデータをもとに計画の立案、評価ができるため、非常に重要。一方で GPS 首輪の導入は費用が掛かるため将来的には国が支援できれば市町村が助かる。
エネ環地研 長	日々、シカの被害に遭われている市町村が苦勞しながら捕獲を推し進めているのには頭が下がる思い。今回の協議会で GPS 首輪による情報が活用できることが示されたのが 1 つの成果ではないか。 白糠町は過去に農水省の助成金を利用して町自らがシカに GPS 首輪を付け、このデータを町から提供していただき、別の研究予算にて立木先生と協力して、どこで捕獲しやすいかなどの分析を行った。釧路湿原では多くのエゾシカに GPS 首輪を装着しているが、それを標茶町や鶴居村が活用できればよいのではないか。
酪農学園大学 立木	白糠町での分析もそうだが、GPS 首輪のデータは、3 年、10 年経っても役に立つ使用期限の長いデータだと考えている。 また、今年度の現地ミーティングのように、今年の捕獲状況や雪の影響が捕獲にどのように影響しているかなど捕獲の苦勞話を分かち合うような、自由な発言ができる担当者同士の交流の場が今後とも続くとよい。
環境省 川越	釧路湿原では環境研究総合推進費事業でエゾシカに GPS 首輪を装着した。自治体による捕獲事業やその検討のための調査等には、環境省や農水省による補助事業があるため、活用を検討してもらえればよいと思う。北海道でも調査等も含め実施されていると思うが、状況はいかがか。
北海道 仲澤	道庁でも GPS 首輪の装着を実施しているが、予算に限りがあるので年に 4 頭程度と限られている。今年は釧路町の囲い罠で 2 頭に装着した。ワ

	ツカ原生花園でも試みているがなかなか難しい。首輪自体のコストや生体捕獲の難しさなど GPS 首輪の装着は一筋縄ではいかない。環境省の鉤路湿原の例を参考に今後も取り組んでいきたい。エリア外になってしまうかもしれないが協力していきたい。
環境省 川越	先ほど立木先生から市町村へのレスポンスについて言及があったが、次に環境省から今後の連携方策について説明されたい。
環境省 松尾 EnVision 小林	資料 2-3、別紙の説明 重点対策エリアについては、まずは保全対象である森林に着目し、森林の所有者又は管理者と中心に議論して絞り込んでいきたい。
弟子屈町 西内	実施計画に記載されている屈斜路湖の中島の自然や植物は、エゾシカによる影響が悪化しており保全の必要がある。今まで以上に環境省や各機関と連携をとりながら対策を進めていけたらと思う。
環境省 川越	重点対策エリアの候補にもなると考えられる。国有林でもあるので各機関との連携を強めていきたい。
エネ環地研 稲富	連携の方向性についてはいいアイデアだと思う。協議会でデータを収集する際に、膨大な情報が集まると思うが、情報の整理と活用をしていくことが重要だと思う。その際に森林管理局や EnVison の地図化の例があったが、このような形式で分かりやすく示してほしい。また、協議会は長年継続するうちに各機関の報告だけで、終わってしまうことが多いので、現地ミーティングのような交流できる場を継続して設けてほしい。ライトセンサスの結果については、道総研でも GIS 化を進めており、今後は連携することが可能になると考えている。
環境省 松尾	報告が中心の検討会になるのではなく、共有した情報が活用されて次の対策の企画立案に結びつくことが重要だと考えている。今後、市町村が活用しやすいデータの取りまとめ方等を掘り下げていきたい。
酪農学園大学 立木	環境省から説明のあった連携方策に、GPS 首輪による調査や捕獲手法の検討などが盛り込まれているが、これらの事業のスケジュール感はどうか？
環境省 松尾	GPS 首輪の装着や捕獲適地、捕獲手法の検討については、どの程度の規模で実施できるかはわからないが、次年度から着手していきたいと考えている。
酪農学園大学 立木	重点地域が中心になると思うが、そこで得られた結果や技術を協議会全体にフィードバックしていけると良い。現地ミーティングや重点地域の現地におけるディスカッションの場が今後も重要だと思う。
環境省 川越	ここまでで何か意見はないか。また、環境省から提案された今後の連携方策については、この案のとおり、協議会として進めていくということで良いか。

	(意見や反対がなく連携方策案が承認された)
(3) 次年度の予定	
環境省 川越	資料3に関して環境省から説明されたい。
環境省 上畑	資料3の説明
前田一歩園 酒井	一歩園の集めたデータを活用してほしい。継続して稚樹への影響調査や新たに無積雪期のロードセンサスなどの調査を進めていきたい。一歩園もデータを蓄積していくのでフィールドの提供や生体捕獲したシカをGPS装着のために提供するなど連携していきたい。
(4) その他	
環境省 川越	その他全体を通して意見があればお願いしたい。 (特になし)
環境省 伊藤	閉会挨拶